

超高齢社会の今

南高生に求められる意識とは

高齢化の現状

近年、社会問題となっている「少子高齢化」。生活していく中で、これからの考え続けなければならない課題である。しかし、まだ対応策に見合った結果が表れていないのが現状だ。そこで、報道局は高齢化によって起こる社会的影響をより深く知ってもらうべく、調査を開始することにした。

現在、日本の高齢化率は28.7%（2020年推計）である。これは超高齢社会の基準となる21%を十分に上回る結果となっている。では、私たちがいる網走市の高齢化率はどうか。JMAPのデータによると、網走市の高齢化率は31.8%と全国平均よりも3.1ポイント高い水準だ。この背景として若者の都市部への流出も原因の一つとして考えられる。日本は、さらに高齢化が進むといわれている。進む原因は様々あるが今回は日本の平均寿命を例に挙げてみる。厚生労働省のデータによると2021年の日本人平均寿命は男性が81.5歳、女性が87.6歳である。内閣府は2060年には、男性が84.2歳、女性が90.9歳になると予測している。これらの

2年後に迫る 2025年問題

代が75歳以上の後期高齢者となり、我が国が超高齢化社会になることをいう。厚生労働省のレポートによればこの問題により、高齢者世帯数が約1840万世帯となり、そのうち約7割が1人暮らし、もしくは高齢夫婦のみと予測されている。首都圏をはじめとする「都市部」などでも急速な高齢化が見込まれている。これらのことから高齢者の「住まい」の問題が懸念されている。

Q 2025年問題について知っているか
(回答数 26)

知っている 0%
知らない 100%

Q 2025年問題はどういうものだと思うか

- ・少子高齢化
- ・地球温暖化
- ・環境問題



発行所
網走南ヶ丘高校
報道局
発行責任者
歌丸昊成

ことから65歳以上の人口が増加していることも高齢化が起る原因の一つと言える。さらに平均寿命が変化したことで、年金問題が発生する。2060年の平均寿命から考えて65歳からの支給とすると、生涯で約16.25年もの間、支給されることになる。さらに、平均寿命がのびれば、国や国民が負担する年金がより一層増えることになる。

南高生「知らない」100%

近い将来、高齢化が一層進むといわれている。2025年問題を知っているかどうかを確かめるために、アンケートを実施した。（回答数26）すると、全員が知らないという結果となった。西暦2025年以降、団塊世代

少子高齢化によって問題視されている一つとして労働人口の減少がある。労働人口の減少が「残業時間の増加」と「休暇取得数の減少」といった問題につながる。将来、仕事に就く際に悪影響を及ぼす可能性がある。

ある企業では急速な高齢化・人口減少から豊かさの低下に繋がるまでの流れを縮小スパイラルと称している。（下記参照）高齢化・人口減少は国内市場の成長力を低下を招く。この問題を他人事と思わず、考えていかなければならないだろう。

深刻な労働人口減少 若年層への影響とは

また、労働人口の減少が懸念されている業界として介護業界が挙げられる。介護サービスが受けられなくなり、必要となるケアを受けられない介護難民や、高齢者が高齢者を介護する「老老介護」などの増加にも繋がる。これは高齢化が進む日本にとって深刻な問題である。これらの介護問題は、高校生にも影響がでる場合もある。本稿ではヤングケアラーに焦点を当てよう。

ヤングケアラーは、本来大人が担うようなケアを引き受け、家事や家族の世話をしている18歳未満の若者を指す。

今回は少子高齢化による社会的影響を知ってもらうことを目的に取材を行った。その結果、2025年問題への認知率の低さが垣間見えた。これから5年問題への認知率の低さはそれらの問題を知り、改善のために取り組んでいく必要がある。そのために今のうちから少子高齢化について興味を持ち、社会に関わっていくことが求められているのではないだろうか。

（塚本妃那）

特集を終えて

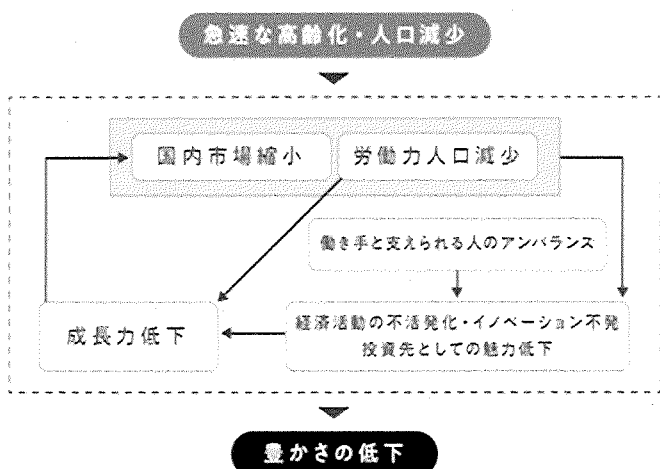
話などを行って18歳未満の人を指す。このように問題を減らすためには、社会全体の支援や協力が必要である。高生や協力ができないと環境づくり等ができることを探し、助け合いの輪を広めるところから始めてみてはどうか。

▼四月も半ばを過ぎると、すっかり春という季節に慣らされるような感じがする。さすがは四季、頼みもしないのに歴史に毎年現れて、悠久の歴史で地球上の生物をコントロールし続けているの伊達ではないと言ったところであらうか。▼春と言え、新学期の始まりであり、学年もそれぞれ1つずつ上がることは言うまでもない。特に3年生は、活にも慣れ、朝から夕方まで授業を受け続けるルーティンが地を這うごときになり、新しい生活はそうではない。しかし、新入生はそうではない。彼らにとって高校生活は、最初から新鮮な体験ができる時期がまさしく今なのである。一年次生には是非とも人生の「春」とも言えるこの瞬間を満喫してもらいたい。

（歌丸昊成）

▼インシュアランスグループ資料より

縮小スパイラルのイメージ図



夏炉冬扇